

第1・2学年 「特別の教科 道徳」 学習指導案

令和3年10月7日(木) 3時間目 場所：1・2年教室

- 1 教材名 ぐみの木と小鳥 (内容項目 B(6) 親切, 思いやり)
2 ねらい

登場人物の心情を想像することで、親切な行為は、思いやる心も関わっていることに気づき、自分の生活に生かそうとする心情を育てる。

3 構 想

(1) 児童の実態

本学級の児童6名(1年生4名、2年生2名)は、元気が良く、人形遊びが好きな女子3名、外で汗びっしょり遊ぶ男子3名である。異学年が同じクラスにいるため、2年生は周りに合わせて行動できない1年生に対して厳しく声をかける姿を見かけることがある。1年生は周りを気にせず、自分のことばかり考えて行動している。そこで、「ぐみの木と小鳥」の学習を通して、登場人物の心情を想像し、親切、思いやりとはどういうことなのか考えることができるようにしたいと考えた。

(2) 教材のとらえ

「ぐみの木と小鳥」には、子供たちが興味を持っている鳥、宮崎小学校にもたくさん実っている木、なかなか見る機会はないが宮崎地区にもいるらしい野生のりすが出てくるお話である。自然豊かな地域になる宮崎小学校にも実際に起こりそうな話の内容なので、子供たちも想像しやすい物語だと考える。小鳥の嵐の中に木の実を届ける優しさ、小鳥やぐみの木に感謝するりす、りすを思いやるグミの木の気持ちに気付くことで、人に親切をしようという気持ちを育むことができる教材だと考える。

(3) 本時の指導の工夫

- ・1年生でも物語を把握できるように、人形劇形式で題材を聴く。
- ・役割演技を、人形を使用して行い、登場人物の気持ちを想像しやすいようにする。
- ・意見を言うことが苦手な子供がつぶやいたり、手を挙げたりした時には、取り上げて話を聞くようにする。
- ・全員が理解できるように、板書に相手を思いやっている発言にはハートマークを貼る。
- ・文字を書くことが苦手な児童でも、自分の思いが絵などで表せられるように、iPadのスクールタクトを利用して、授業を振り返ることができるようにする。
- ・振り返りには、自分事としてとらえることができるように、授業を終えてこれからどのように生活していきたいかを書くようにする。

4 本時の学習指導

(1) 展 開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 親切にしてもらってうれしかったことはあるか考え、発表する。 ・なくしたものを探してくれた。	・発表が苦手な児童がつぶやいたり、手を挙げたりしたときには、1番に取り上げる。
展開 (30)	2 範読を聞き感想を発表する。 ・いい話だった。 ・小鳥さんが優しかった。	・1年生でもわかるようにデジタル朗読を流しながら、人形劇を行う。 ・感想の中から、優しかった、いい子だ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐみの木さんがいい人だった。 <p>3 課題を把握する</p>	<p>ったなどの感想から、課題を設定する。</p>
<p>しんせつってどういうことだろう。</p>		
<p>振り 返り (10)</p>	<p>4 動作化をして、それぞれの登場人物のしたことや、心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小鳥がりすにぐみの実をもっていった。 ・あらしの中でも持っていったあげよう。 ・やっぱり今日はやっぱりやめようかな。 ・小鳥さん、嵐の中、大丈夫かな。 ・りすさんは何もしてあげてないから、親切じゃないのかな。 ・りすさんも小鳥さんも、とってもうれしいきもちになったね。 <p>5 本時の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながうれしい気持ちになるようにしたいな。 ・1年生が困っていたら、大丈夫って声をかけてあげて、優しくしてあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切をしていることがわかりやすい、小鳥、りす、ぐみの木の順に登場人物の心情を役割演技をさせてから、考えられるようにする。 ・役割演技をした後すぐに、登場人物の心情を尋ねる。 ・小鳥が嵐の中行くか行かないか葛藤する様子を捉えることができるように矢印を使って板書を工夫する。 ・ぐみの木がりすを心配する、りすが小鳥を心配する心情の発言が出たら黄色のチョークで板書する。 ・物語の最後、小鳥、ぐみの木、りすはどんな気持ちになったのかなと尋ね、全員があたたかい気持ちになったことを確認する。 ・iPad のスクールタクトを使用して考えを書くことで、文字だけでなく絵でも表せるようにする。 ・自分事として捉えられるように、授業を受けて、どのようにこれから生活していきたいか書くように伝える。

(2) 評価

- ・親切にする側、される側の両方の立場から気持ちを考えると、親切にするとは、何かをしてあげることだけではなく、相手を思いやる心も大切だと気付くことができた。 (活動4、5の様子から)
- ・友達や周りの人に対して、親切にしたり、思いやりをもちたいなどという気持ちを持ち、自分のこととして考えることができた。 (活動5の様子から)

(3) 板書計画

